

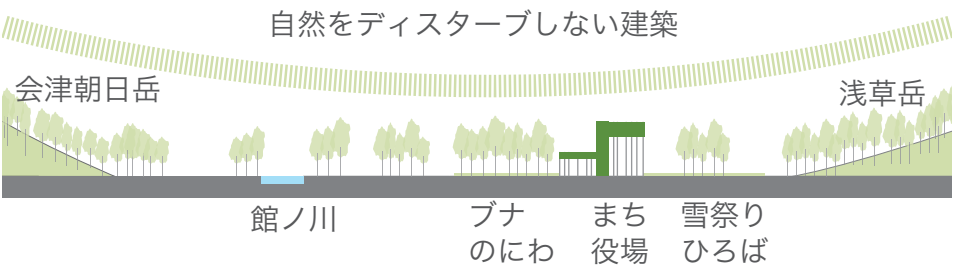
「塔」としての役場が作る、
小さな町の「公」の場

シンプルでコンパクトなまち役場スペースと空中に持ち上げられた地区センター（ただみりビング）が、無雪スペース（ブナひろば）を介して、駐車場（ブナの庭）と雪祭りひろばをつなぎ、みんなが自然に集まれる「公」の場を作り出します。

ただみりビングは、町全体を見渡すことが出来る「塔」としての役場であり、防災拠点やイベント拠点としても使える、役場と議会と町民が共同で使う場です。

山と川をつなぐ建築

自然と共に生きる只見町の庁舎は、自然をディスタープしない建築が相応しい。既存の分庁舎の高さに抑え、町の景観と調和し、カタチを主張しない建築を提案します。



町の塔としての庁舎

ただみりビングには防災センター機能が置かれ、増水氾濫や土石流警戒地域、避難場所など町を 360 度見ることが出来ます。また、浅草岳や会津朝日岳などの名山も望め、観光拠点としても機能します。

町を結び付ける3つのひろば

雪祭り以外にもマラソンやウォーキング大会、キャンドルナイト、駅前フェスタなど、年間を通して様々なイベントがあり、それらと3つのひろばを結び付けることで、庁舎と町を結び付けます。

広場とイベントの一体化

雪まつりひろばとブナひろばとブナのにわの3つを結び付けることで、駅前通りと一体となったイベントスペースが出現し、様々な活用方法が生まれます。

